

令和7年度第2回多治見市介護保険運営審議会議事録

日 時：令和8年2月6日（金） 13:30～14:35

場 所：バロー文化ホール 2階練習室1

出席： 仲西直治会長、田中勇治委員、柴田ひとみ委員、井澤吉英委員、亀山康代委員
大前雄介委員、山田宗平委員、大村弓子委員、細江正尚委員（順不同）

欠席：

事務局： 金子市民福祉部長、前田高齢福祉課長、大中L、三浦L、水鶏口L

事務局

本日は、大変お忙しいところ、また、大変寒いなかご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただ今から、

令和7年度第2回多治見市介護保険運営審議会を開催します。

本日の会議は、委員の過半数のご出席をいただいておりますので、多治見市介護保険条例施行規則第10条第2項の規定により、会議が成立していることを報告いたします。

なお、本会議は、多治見市情報公開条例第23条により公開としますのでご了承ください。

会議の議事録につきましては、事務局が作成した後、各委員のみなさまに確認をいただいたものについて、発言者の名前を伏せて、多治見市ホームページにて公開させていただきます。あらかじめご了承ください。

会議にあたりまして、市民福祉部長から挨拶を申し上げます。

市民福祉部長

お忙しい中ご参集いただきまして誠にありがとうございます。本審議会でございますが、介護保険事業の円滑な運営を図るために事業に関する重要な事項について、市長の諮問に応じ審議をしていただく機関でございます。本日の諮問事項につきましてはあらかじめ会長のお席に市長からの諮問書を置かせていただいております。諮問事項といたしましては令和8年度多治見市介護保険事業特別会計予算案についてご審議をいただくものでございます。

来年度は第9期の多治見市高齢者保健福祉計画の最後の年であり、第10期の同計画の策定を行う年でもあります。本日もご審議いただく予算案については給付費の増加を踏まえながら、本市の給付の傾向をより反映したものとしています。皆様にはご審議賜われますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

事務局	<p>(配布資料確認)</p> <p>ここからは議事の進行となります。会長どうぞよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>それでは、諮問事項の「令和8年度介護保険事業特別会計予算案」について審議に入る。</p>
	<p>(資料に基づき説明)</p>
事務局	<p>質問はあるか。</p>
委員	<p>介護給付費準備基金はいつでも動かせる体制にしておくべき。債券運用に際して、債券投資へのリスクも含めてその部分をどう検討したか。</p>
事務局	<p>運用する原資については、約21億円の基金残高に対して8億円。長期債券を避け1年から2年の期間を選定しています。</p>
市民福祉部長	<p>医療保険の給付については流行性の疾病の発生による医療給付費の急増が考えられますが、介護保険は増加傾向であるものの極端な給付費の増加は起きにくい性質のものです。</p> <p>安定的な財政運営の中で増額が続いている基金残高について被保険者のみなさまへの還元を考えたとき、事務費については債券運用による利子収入で賄いたいと考えています。</p> <p>いざというときに基金が利用できなくならないよう、定額で購入でき、短期で運用かつ比較的风险の少ない銘柄を選定することで、安定的な利子収入を確保し、将来的な被保険者のみなさまへの還元を目指しています。</p>
委員	<p>歳入歳出に関して特別質問はございません。</p>
委員	<p>令和8年度予算案について、毎年2%~3%の給付費増加がある中で基金の取り崩し計画も含めてうまく組まれていると思う。今後積立額が減り取崩額が上回ることになれば基金は減っていくことになる。直近では第10期計画における保険料段階の検討があるところだが、長期的な視野をもって基金投入の検討して欲しいと思います。</p>

会長	基金の残高は過去に1億円をひとつの目安に、との話しがあったと思うが、現在、具体的に考えていることはあるか。
高齢福祉課長	被保険者数の多い、いわゆる団塊の世代において介護保険の利用件数が増えてきていること、合わせて予防給付費も増加傾向となっています。今後も増加が予想される給付費に対して、保険料負担の増加が必要となる可能性もある。そうした状況下で激変緩和の手段のひとつとして基金を投入していくという考え方をしており、適正な基金残高という数値の設定はしておりません。
委員	今後は積立額が減っていく、取り崩していく必要があるなかで、どの程度が適正な金額かは判断できないところ。歳出と歳入のバランスをしっかりと見据えて欲しい。
会長	基金の残高についてはこれまでも審議会のお話にも上っているが、具体的な内容については市でないと分からない。十分な検討をお願いしたい。
市民福祉部長	皆様方のご意見を頂戴しながら、保険料額の上昇緩和にどのぐらい基金を投入していくかも含めて計画を策定していきます。また運営審議会としてのご判断をいただきたいと考えています。
会長	多治見市の介護保険料は安い方だと認識しているがどうか。
事務局	第9期計画では県内22保険者中高い方から11位。第8期計画では県内22保険者中8位でした。
委員	<p>予算案に関しての意見はない。</p> <p>要支援の方が増えている、年齢の若い方の認定が増加しているという説明であった。ケアマネージャとして、そういう若い方が、なるべく介護度が上がらないよう、過不足の無いケアプランを立てることを目指して、なるべくお元気でお年を重ねていかれるように支援していきたい。</p>
委員	<p>介護保険料の負担感については、資料を見ている限り、現状の介護保険料設定はやむを得ないものと理解した。</p> <p>予算とは別の話になるが、介護施設への入所について、定員の問題か</p>

らなかなか入れないという話を聞く。施設の充実を図ってスムーズに入所できる体制を整えていって欲しい。

委員

予算案に関しての意見はない。

ケアマネージャの立場として、介護と予防のサービス計画費の予算増加は、要介護ではなく要支援が増えている状況と在宅で暮らしていけるような支援という面を反映したものと考えており、地域で暮らしていくということに市が協力してくれていると感じている。

ケアプランを立てるときに、必要以上のサービスを入れず、自分でできる力を生かしたケアプランを作っていくよう、ケアマネージャ全体が意識していくと予算も変わってくると理解した。

委員

施設サービス給付費の予算伸び率がマイナスとなっているのは利用者の減もあるのか。

事務局

直接利用者数の把握はしていませんが、介護老人福祉施設については（入所待機数調査から）入所待ちがある状況と認識しています。状況としてはほぼ満床ではないでしょうか？

介護施設ではありませんが、グループホームの空き状況については市内全体で10床程度の空きであると、事業所から聞き及んでいます。

委員

施設では空床があることも多いと聞いている。

高齢福祉課長

施設介護サービス給付費における予算額のマイナス要因の一つは、予算が前年度の実績を見ながら立てていくことが挙げられます。令和7年度予算を立てる際は、令和6年度実績として介護老人保健施設の給付費が大きく伸びていたことで予算を多めに確保しましたが、実績としては想定より伸びませんでした。令和8年度の予算は、その実績を考慮したことで前年度当初予算比としてはマイナスになっています。

委員

毎年少しずつ増加している傾向はみられ団塊の世代の認定者数増加を迎えているが、今後はどのように推移していくと分析しているか。認定者数は減っていくのか。

高齢福祉課長

75才を超えて介護保険を使い始めた方には、できるだけ軽い認定度を維持していただきたいところですが、要支援から要介護へ移行した状態を維持すると考えられるため、今後もまだ介護給付費の増加は

続くと考えています。

先ほど話題に上った基金の投入についても、こうした状況を反映して保険料が急激な増加とならないよう、激変緩和対策として投入していくことを想定しており、今後の介護給付費の実績を見据えながら考えていきたいと考えています。

委員 認定審査会でも自立している方が要支援として審査に上がってくる例が多くなったと感じている。介護保険の前段階として要支援でなくても利用できる、総合事業の活用も視野に入れていかないと介護保険の対象者が一方的に増えていく心配がある。

高齢福祉課長 少しでも不調があると介護保険の認定申請をする方が増えていると感じます。保険者としては要介護認定申請の提出を断ることはできない立場ではありますが、介護保険利用の相談窓口となる地域包括支援センター等も含めて総合事業等の利用を案内しているところです。

会長 審査会による介護度の決定が、一次判定より軽い方へ動くということは、判定ソフトや樹形図の運用に過去との違いはないか。住宅改修給付などの利用のみの方もいると聞いている。

委員 基準は変わっていない。さしあたって住宅改修の給付を希望するケースも、認定審査をする中で見えてくる場合もある。

委員 そうした方についても事前に断るわけにはいかず、認定申請が提出されたものについてはすべて認定審査会で判定する必要がある。

会長 審査会はそうした申請に非該当の判定を出すことも役割としてある。お手数だとは思いますがよろしく願いたい。

この案件については事務局原案のとおり答申する。

引き続き報告事項に入ります。事務局から説明願う。

(資料に基づき説明)

質問はあるか

(質問なし)

それでは、本日の審議会を終了する。